

別紙2 新たに「選定」した建物や庭園

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
1	第 12-001 号	右京	風の和音（辻澤家）	仁和寺近くにある邸宅。昭和初期に建てられた主屋や、円窓のあるお茶室「衣翠庵」、離れ「不狐庵」があり、広大な庭園は、四季折々にその表情を変えている。
2	第 12-002 号	北	井上家	屋敷には、門、茅葺き屋根（今はトタン屋根で覆われている）の主屋、土蔵などがある。旧葛野郡衣笠村の村長宅で、元住友財閥の総理事 古田（井上）俊之助の生家としても知られている。
3	第 12-003 号			(非公表)
4	第 12-004 号	上京	京都 YWCA サマリア館	ヴォーリズ設計により建てられた 2 階建て木造建築。当初はホテルとして利用された。温かみのある魅力的な建物を、地域の方々に親しまれ、人々が出会い交流する場として、大切に維持・活用したい。
5	第 12-005 号	左京	熊野神社	京都三熊野の最古社で、聖護院の守護神として、地域住民から「権現さん」とも呼ばれ親しまれている。鳥居を配した参道正面から拝殿が見え、奥に本殿、その東側に祖霊殿が建ち並び、境内の豊かな緑と一体となって落ち着いた一角を形成している。
6	第 12-006 号	左京	服部家	火袋やむしこ窓などの趣が残っている建物。主屋は、表側と南側（裏側）にそれぞれザシキがあり、農家住宅の特徴を持つ。離れは、昭和天皇の御大札に合わせて増築された。
7	第 12-007 号	左京	妙傳寺 <small>みょうでんじ</small>	日蓮宗京都八本山の一つ。日蓮上人の御分骨が納められており、西の身延とも呼ばれる寺院。宝永 5 年 (1708) の大火によりこの地に再興された。
8	第 12-008 号	左京	山内家	昭和 1 6 年 (1941) 頃建築の住宅。前庭、数寄屋風の玄関や供待、座敷の庭園などがそのまま残っている。受け継いだ住宅を次の時代にも伝えていきたい。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
9	第 12-009 号	中京	かたやまぶんさぶろう 片山文三郎商店	京鹿の子絞り専門の呉服製造業を創業した初代が昭和10年(1935)に建築した表屋造、本二階建の町家。ザシキには繊細な意匠を施した良質な材を用い、洋室が設けられているなど、大正から昭和初期の上質な町家の特徴を見ることができる。
10	第 12-010 号	中京	カトリック河原町教会	明治23年(1890)建築の聖ザビエル聖堂が明治村へ移築後、昭和42年(1967)に新聖堂として建てられたもの。外観の大きな勾配屋根は、設計指導をしたカール・フロイラー神父が発案したものとされ、京都らしさを意識しつつ、モダニズムの意匠で建てられた印象的な聖堂である。
11	第 12-011 号	東山	高宮家	築100年を超える、外観がレトロな洋館風の木造の住宅。当時は、1階で高宮大黒堂という薬店を営んでいた。薬店の看板や、明治時代のオルガンや柱時計も現役で残っており、大切に維持、継承していきたい。
12	第 12-012 号	(非公表)		
13	第 12-013 号	南	杉山家	高さの低いむしこ窓のある農家。煙出しもあり、かなり古い建物ではないかと思われる。
14	第 12-014 号	南	戸倉家	明治2年(1869)に建てられた農家住宅。煙出しの残るつし二階建てで、間口6間の雄大な構えは、京都の近郊農村の風景を留める貴重な住宅である。
15	第 12-015 号	左京	関西美術院	明治時代に西洋画の私塾として画家浅井忠により設立された関西美術院。明治39年(1906)建築で、設計は武田五一。アトリエの採光として理想的な北側に大きな窓を持ち、屋根は片流れの銅板葺き。現在も常時20余名が洋画の研鑽に励んでいる。
16	第 12-016 号	右京	らくししや 落柿舎	落柿舎は、江戸時代に松尾芭蕉の門人の向井去来の別宅を再興したもので、芭蕉が嵯峨日記を残したという、文学史上で貴重な史跡と言われている。敷地内の建物と庭の草木の様子は、なんとも言えず懐かしく、風情がある。